

水辺の事故編



～予防ポイントを実践して病気や事故を未然に防ぎ、救急事故を予防しよう！～

水辺の事故は、ほんのわずかな油断で発生し、短時間で命に関わる重大な事故につながります。夏に増加する水辺の事故を少しの注意と備えで防ぎましょう。

今日からできる「水辺の事故」予防

- ☐ 子どもから目を離さず、手が届く範囲で見守る
- ☐ 子どもだけで川や池へ行かない、行かせない
- ☐ 川や池で遊ぶときはライフジャケットを着用する
- ☐ 水辺の地面や岩場は滑りやすいので注意する
- ☐ 水流が速いなど危険な場所で遊ばない
- ☐ サンドルや帽子が急流に流されても取りにいかない
- ☐ 飛び込みはしない
- ☐ 天気や河川の情報を確認する
- ☐ 飲酒後の入水は控える

京都市の
水辺の事故
搬送傾向



- ・夏に川や池での事故が多い
(7月に急増、8月がピーク)
- ・特に子ども(0歳～17歳)の
事故が多い

安全と思われる場所でも、
ささいな不注意や無謀な行動、
危険な悪ふざけが事故に
つながることもあります



応急手当と対応

- ☐ 溺れている人を発見しても安易に水に入らない
- ☐ 近くの人に協力を求める
- ☐ 119番に通報をする
- ☐ 浮き輪や空のペットボトルなど、浮くものを溺れている人の近くに投げる
- ☐ 岸から近い場合は、棒やロープなどを使い、近くの人と協力して低い姿勢で引き寄せる
- ☐ 万一流された場合は「浮いて待つ」

一つでも当てはまれば 迷わず119番通報

- ☐ 人が溺れた・流された場合
- ☐ 意識がない・反応が悪い
- ☐ 呼吸が苦しい、または呼吸がない
- ☐ 咳が続き、顔色が悪い、唇が紫色になる
- ☐ 一時的にでも水に沈んだ



京都市消防局
KYOTO CITY FIRE DEPARTMENT

救急車を呼ぶか迷うときには **#7119** をご利用ください
【監修】京都市・乙訓メディカルコントロール協議会

